

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学部 児童学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

児童学科の教育目標は、大学及び学部の教育目標から導かれ展開する構成となっており、その連関性は保たれている。以上により、現時点で変更の必要性は生じていない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特筆すべき事項なし。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

児童学科の教育目標は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明示され、また「大学ウェブサイト」「学園要覧」等において広く社会に公表しており、オープンキャンパス等においても積極的にその伝達を図っている。また、大学構成員、特に学科に所属する学生に対しては、毎年度更新・編集されている「学習の手引」や履修ガイダンス、オリエンテーションを通じて、本学科の理念・目的、教育課程、育成する人材像などについての説明を行っている。2016年度学生生活実態調査におけるQ5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」の設問に「はい」と回答した本学科学生の比率は、22.3%となっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特筆すべき事項なし。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの) ①「大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。」の説明についての根拠資料、②の【現状説明】の記述中の空欄の部分に具体的な数値が示されていませんので、客観的な根拠を明記してください。

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見 ①の根拠資料は次のとおりである(本学のWebページより)。 児童学科の教育目標 http://www.kyoto-wu.ac.jp/daigaku/kyojo/rinen/mokuhyo/kyoiku.html#id5 ②については次のように加筆した。 2016年度学生生活実態調査におけるQ5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」の設問に「はい」と回答した本学科学士の比率は、22.3%となっている。
--

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学部 児童学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」を定め、これに基づき別表2「学位授与の方針」を定めている。「学位授与の方針」には課程修了にあたって修得しておくべき能力を[知識・理解][汎用的技能][思考・判断][対話・相互理解][社会性・自律性][自立性]の観点から具体的に明示している。平成28(2016)年度には、3つの方針の公表の義務化を見据えて、既存の方針の見直しをおこなった(平成29年4月1日改正)。「学位授与の方針」については、大学ホームページや「学習の手引」においても明示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

「学位授与の方針」を、大学ホームページや「学習の手引」においても明示している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特になし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特になし。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特になし。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大半の学生が幼稚園教諭免許および保育士資格の取得をめざしているため、それらの免許・資格が取得できるように授業科目を適切に開設している。しかし、児童学科の教育目標はこれらの免許・資格の取得だけではなく、「児童学」として幅広く体系的に子どもについて学ぶことにあるため、教育課程はその方針に基づいて編成している。

また、いわゆる「大学全入時代」を迎え、基礎学力や学習意欲の相対的に低い学生の入学に対応するため、本学では全ての学生が1年次から少人数のゼミ形式の授業を履修する方針を全学的にとることとなった。この方針に基づいて、従来の科目の内容・年次配置を再検討して編成しなおし、平成23(2011)年度より新たな教育課程を開始して、全ての学生が全ての学年・学期において何らかのゼミ形式の授業を必修で履修するようになった。具体的には、1年次に「児童学入門演習」、2年次に「児童学基礎演習」、3年次に「児童学専門演習」、4年次に「児童学研究演習」が必修科目として開講されている。これらの科目履修を通して、初年次教育から専門的な教育まで体系的に、また、児童学全般の概論から任意の専門領域の特論へと段階的に教育を行うこととしている。これらの履修モデルの全体像については『児童学科 学習の手引』に明示されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

・適切な授業科目を開講している。特に資格取得につながる授業が充実している。(資格関連科目の開講状況については『児童学科 学習の手引』の「6. 発達教育学部児童学科教育課程」を参照。)

<根拠資料>

(1)2016年度『学生生活実態調査』Q2-17「資格取得につながる授業が充実している」(指標閲覧No. 0039)に「①そう思う」「②まあそう思う」と回答した割合: 77.7%(全学平均 53.7%)

・平成23(2011)年度より少人数ゼミが実施されている(『児童学科 学習の手引』の「4. 児童学科の4年間の演習の流れ」を参照)。

・体系的、段階的な教育を行うことができるよう教育課程の編成がなされている。(『児童学科 学習の手引』の「3. 児童学科のカリキュラムの特徴」「4. 児童学科の4年間の演習の流れ」を参照。)

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特になし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特になし。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 特になし。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 大半の学生が幼稚園教諭免許および保育士資格の取得をめざしているため、それらの免許・資格が取得できるように授業科目を適切に開設している。しかし、児童学科の教育目標はこれらの免許・資格の取得だけではなく、「児童学」として幅広く体系的に子どもについて学ぶことにあるため、児童発達・児童保健・児童文化・児童表現の領域に分け、各領域の教育課程はその方針に基づいて編成している。学年進行としては、2年次までに各領域(分野)について幅広く学ぶ機会を設け、3年次以降はいずれかの領域のゼミに所属しながら、学生の興味・関心に沿って、任意の領域(分野)について学習を深める体制となっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・適切な授業科目を開講している。特に資格取得につながる授業が充実している。(資格関連科目の開講状況については『児童学科 学習の手引』の「6. 発達教育学部児童学科教育課程」を参照。)。 ・学生の評価でも、2016年度『学生生活実態調査』Q2-17「資格取得につながる授業が充実している」(指標閲覧No. 0039)に「①そう思う」「②まあそう思う」と回答した割合が77.7%(全学平均 53.7%)となっている。 ・また、それらの科目への評価として、2016年度『学生生活実態調査』Q3-44「社会に出て役立つ実用的な専門知識や技術を身につけること」(指標閲覧No. 0080)に「①とても役立つ」「②やや役立つ」と回答した割合が75.5%(全学平均 62.0%)と高いことが示されている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特になし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本学科では、教育目標達成のために、全年次において、1クラス30人以下の少人数演習科目を必修科目として1年時から4年時まで体系的に設置しており、特に1年時の「児童学入門演習Ⅰ」「児童学入門演習Ⅱ」では、大学での学びの基礎となる、調査・分析、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションといったアカデミック・スキルの基礎習得を目的とした初年次教育の充実を図っている。2年次以降は、「児童学基礎演習Ⅰ」「児童学基礎演習Ⅱ」(以上、2年次)、「児童学専門演習Ⅰ」「児童学専門演習Ⅱ」(以上、3年次)、「児童学研究演習Ⅰ」「児童学研究演習Ⅱ」(以上、4年時)と引き継がれ、最終的には卒論制作につながっている。(『児童学科 学習の手引』の「4. 児童学科の4年間の演習の流れ」を参照)。 これ以外でも、同一科目を複数開講することで適正規模による授業運営に努め、また講義科目でも、グループワークやコメントシートを活用したアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の主体的参加を促すようにしている。 また、毎学期末のGPA成績に基づき、必要に応じて、個別の履修指導を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・2016年度の『学生生活実態調査』でのQ2-20「少人数制の授業が充実している」(指標閲覧No. 0043)に「①そう思う」「②まあそう思う」と回答した割合:65.5%(全学平均 51.8%)と肯定的な評価が得られている。 ・毎学期末のGPA成績に基づき、必要に応じて、個別の履修指導を行っており、これにより、出席状況が芳しくなかった学生も勉学に意欲を取り戻すなど、目に見えて効果があがっている。

【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。 特記事項なし
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。 特記事項なし

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 卒業に必要な単位数や学位授与の方針、学位授与の方針と各領域・科目との関係は『履修要項』や『児童学科単位修得要領・学習の手引き』に明示されている。また、履修ガイダンスやオリエンテーションなどでは、「学習の手引」を用いて教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針などを学生に説明している。 卒業研究に関しては、各領域・ゼミ単位で公開による卒業研究発表会・展示会が実施されている。また卒業研究の成果は、『卒業研究抄録集』としてまとめられて公開されている。こうした手続きは、学生にも周知されている。 単位認定および学位授与に関しては、以上のような厳格な審査と学科会議での合意を経た後、さらに学部教授会において確認・審議され、すべての卒業要件を満たして合格と判定された者のみに認められている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方針】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 「教育目標」「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」を、大学ホームページや「学習の手引」において大学構成員を含め社会に広く公表している。教務委員会メンバーである児童学科主任、教職課程専門委員などによる各委員会報告等を踏まえて、学科会議で定期的に検証を行っており、必要な体制は組織的に機能している。 『卒業研究抄録集』を刊行している。
【課題および改善方針】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方針】…実行可能な方針が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方針(伸長方針)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方針を記入。
【将来に向けた発展方針(改善方針)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方針を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学位授与基準、学位授与手続きは『単位修得要領』『学習の手引き』に明示され、学生の研究成果は『卒業研究抄録集』にまとめられている。 学習成果を測る指標として、累積GPA、保育士資格・幼稚園教諭免許取得者数、保育・教育現場への就職者数などが挙げられる。まず、平成29(2017)年度卒業生の累積GPAは2.81(大学平均は2.67)であり、平均取得単位数(184単位)が大学平均(156単位)を上回る中で成果を上げている(③【H29】【学科・専攻別】累積GPA・得点・単位関係.pdf)。次に平成29(2017)年度卒業生の幼稚園教諭一種免許状取得者は90名(88%)、保育士資格取得者は98名(96%)である(括弧内は取得率、『学園報』No.993)。さらに幼稚園教諭・保育士として就職者数は、幼稚園・小学校教諭就職者が31名(30%)、保育士就職者が37名(36%) (括弧内は卒業生に占める割合)である。他の業種も含め、就職決定率は100%であった(「進路統計資料(平成29年度)」p.18,p.26)。 これらのことから、概ね教育目標に沿った成果が上がっていると考えられる。 なお、保育・教育以外の進路選択した者についての修学成果の把握にさらなる工夫が必要である。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方針】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ・就職希望者の就職決定率は、平成26(2014)年度以降、連続して100%を達成している。 ・例年、『卒業研究抄録集』を刊行している。

<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度から行われているジェネリックスキル測定テストや学修ポートフォリオの活用。 ・保育・教育以外の進路選択した者について、修学成果の把握方法の開発。
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</p> <p>教育課程及びその内容、方法の適切性については、学科会議において、授業評価アンケートや学生生活実態調査、卒業時満足度調査の結果から検証している。授業評価アンケートについては、各教員はアンケート結果に対する「授業評価所見」を公表している。2016年度学生生活実態調査結果では、「授業評価などによる学生の意見が授業改善に反映されている」の数値は[26.6]であり、回答者の4人に1人あまりにとどまった。また、2018年卒業時アンケート結果の「専門的な知識が身につく授業が多い」の選択割合が入学前は[48.4]である一方、卒業時は[38.7]と低下していることから、授業を通してより専門性の高い知識を習得したいという学生のニーズに応えられていないことがわかった。</p> <p>そこで、学科会議において要因等を検証し、科目の新設・削減、科目の名称変更・内容変更、実習系科目の教科等のカリキュラム改革に取り組んだ。さらに、毎年度、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科会議で検証している。加えて、原則4年に1度実施されるカリキュラム改革において、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的な観点からも検証している。</p> <p>その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学のFD交流会(事例発表)、公開授業への参加、学外のFD関連研修・講演会への個別参加等を通して行っている。</p>
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p>
<p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</p> <p>アンケート結果を検証し、カリキュラム改革を行った。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</p> <p>複数の評価指標を用いた多面的な評価を行う。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p> <p>特筆すべき事項なし。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p> <p>特筆すべき事項なし。</p>

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

<p>一般的なコメント(総評)</p> <p>目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。</p>
<p>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</p> <p>⑦の【現状説明】の記述中の***の部分には具体的な数値や名称を入れてください。</p>

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

<p>意見</p> <p>⑦については根拠資料を確認の上、次のように一部加筆修正した。</p> <p>2016年度学生生活実態調査結果では、「授業評価などによる学生の意見が授業改善に反映されている」の数値は[26.6]であり、回答者の4人に1人あまりにとどまった。また、2018年卒業時アンケート結果の「専門的な知識が身につく授業が多い」の選択割合が入学前は[48.4]である一方、卒業時は[38.7]と低下していることから、授業を通してより専門性の高い知識を習得したいという学生のニーズに応えられていないことがわかった。そこで、学科会議において要因等を検証し、科目の新設・削減、科目の名称変更・内容変更、実習系科目の教科等のカリキュラム改革に取り組んだ。さらに、毎年度、次年度の時間割を作成する作業の際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科会議で検証している。加えて、原則4年に1度実施されるカリキュラム改革において、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的な観点からも検証している。</p>
--

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学部 児童学科
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規定」別表4「入学者受け入れの方針」において、児童学科の求める学生像や修得しておくべき知識を明示し、その内容は大学ウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 児童学科の学生募集および入学者選抜方法については、学部教授会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。学生募集においては、募集人数に対して十分な競争的環境を保つ受験者数を確保している。入学者選抜は、指定校推薦入試、公募制推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、AO入試があり、いずれも学科の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づいて、公正かつ適切に実施されている。AO入試は本学科で初の実施であったが、募集人数4名に対して8名の受験者を得て、書類・小論文・グループディスカッション・面接によって多面的に評価し、本学科の求める入学者を選抜することができた。入学定員超過率は、2017年度入試は1.01、2018年度入試は1.02となっており、適切な数値となっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学生の受け入れ(学生募集・入学者選抜)の適切性については、学部入試委員で定期的に検討されており、検討結果については適宜、学科会議に報告されるとともに、必要に応じて審議している。これを受けて、学部選出委員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学日の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整に貢献している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 目標が具体的に設定されており、達成のための施策が行われていることは評価できます。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学部 児童学科
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制における学科の方針は、児童発達、児童保健、児童文化、児童表現の4領域の諸科目および保育士、幼稚園教諭養成にかかる科目を担当することができ、それぞれの領域で主題となる研究領域についての専門性を有しており適切に卒業研究指導ができる人材によって教員組織を編制するというものである。 ・基本的な教員像については「京都女子大学教員資格審査規程」においてそれぞれの職階ごとに定められているが、学科としては、保育所等での実習や連携が不可欠であり、それを担うことができる人格面でも保育士・教員養成を行うのにふさわしい人材を求めている。 ・また、編制方針については上記の点を踏まえ、職階や4領域内でのさらに専門領域のバランスを確保することを基準としている。 ・これらの基本的方針は、学科会議において随時確認を行い共通理解を図るとともに、学部改組、保育士・幼稚園教諭養成にかかる社会的要請等の動向の変化などの状況に応じ、修正等の必要性について議論が行われる体制にある。
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p> <p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</p> <p>特筆すべき事項なし</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</p> <p>編成方針を明文化するところまでは至っていないため、今後、改善に取り組む。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p> <p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

<p>【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度における教員数は14名で、教授8名、准教授6名、男女比は6:8、年齢構成は60歳台が6名、50歳4名、40歳台4名となっており、概ねバランスがとれている。また、専任教員一人当たりの学生数は31.1名(在学学生数ベース)である。 ・学科のカリキュラム・ポリシーを踏まえ、児童発達、児童保健、児童文化、児童表現の4領域で構成される教育課程・開講科目に対応した研究分野を専門とする教員を配置している。教員組織と教員の研究分野については、大学案内や大学ウェブサイト公表されている。なお、専門領域の必修科目における専任比率は100%となっている。
<p>【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。</p> <p>【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。</p> <p>特筆すべき事項はなし。</p>
<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。</p> <p>特筆すべき事項はなし。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p> <p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ・教員の募集・採用にあたっては、「京都女子大学教員資格審査規程」にもとづいて適切に行っている。2017年度に教授1名の採用人事があったが、選考は選考委員会での審査、教授会での審議を通じて厳格に行われた。なお、採用する人材の基本的条件については、あらかじめ領域内および学科会議において、討議を行っている。 ・昇進については「京都女子大学・京都女子大学短期大学部教員人事委員会規則」にもとづいて厳格に取り扱われているが、2017年度には発生していない。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項はなし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項はなし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ・全学的なFD活動への参加により資質の向上を図っている。 ・保育士・教員養成にかかる教育に関しては専任教員は全員関与することとしており、保育所または幼稚園との打ち合わせ会(反省会)にはいずれかに参加して現場の実態について理解を深め、教育に反映するよう努めている。それ以外にも、各種関連会議等への参加を通じて今後の施策の動向等について情報を得た場合には学科会議において周知し討議するなど、学外の情報を教育に反映することに留意している。 ・卒業研究の口頭試問、卒業研究報告会などの機会を通じて、教育内容や教育方法について教員間で情報交換を行っている。 ・授業アンケートについては、学科独自の質問項目も加え、教員の資質向上に活用している。なお、授業アンケートにおける「教員の説明や話し方はわかりやすかった」に「5非常にそう思う」「4そう思う」と回答した割合はここ数年80%超で推移している。 ・各教員の活動は、研究活動報告書、教員業績データベースによって開示されているほか、研究内容は発達教育学部紀要によっても公表されている。 ・学科内の組織的なFD活動として「子ども・子育て活動の充実に向けた取り組み」を行った。活動について随時意見交換を行うことで、子ども・子育て活動についての共通理解を図るとともに、ゼミ等での指導でその成果を活かすことを目的とした。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 毎年度の自己点検・評価の機会やカリキュラムの検討などの機会に、教員組織の適切性についても議論・点検を行っている。採用人事を行う際には、それらの議論を踏まえて人事案を策定している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

問題点が的確に認識されて、改善に向けて適切な対応がなされていると評価できます。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見